

(様式1) 実践事例

学校名	国見町立国見小学校	校長名	酒井 隆志		
住所	伊達郡国見町藤田字町尻一2番地	児童生徒数	440	学級数	19
TEL	024-585-2041	ホームページアドレス	http://www.kunimi.gr.fks.ed.jp/?page_id=28		

習熟の場を工夫することにより、基礎的な技能を身につけることができる授業

1 少人数指導の計画等

2、3、4、5の段の九九の習熟を図るために、まとめの段階で習熟度別学習を取り入れる計画を立てた。児童の興味・関心と習熟の程度がほぼ等質な集団で学習することにより、自分に合ったペースで課題に取り組むことができ、わかる喜びや学習の楽しさ、自力解決できる充実感を味わうことができると考えた。また、コース選択にあたっては、一人一人の児童と教師とで、技能の習熟の度合いを十分振り返り、児童が自分自身で適正なコース選択ができるように支援した。コースは3コースを設定し、「より正確に」という視点の「ねずみ（基本）」コース、「よりたくさんの問題に」という視点の「うさぎ（習熟）」コース、「より工夫して」という視点の「さる（応用）」コースに分けた。配慮が必要な児童については、支援員がついて学習を進めた。

2 実践の概要

「ねずみコース」・・・「2、3、4、5のだんのかげ算名人になろう」（21名）

九九の確認、九九カードゲーム、九九ビンゴの活動を通して、九九の定着を図った。

「うさぎコース」・・・「かけ算はかせになろう」（36名）

フラッシュカード（苦手な段を中心に）、難易度別計算練習、文章題によるかけ算の適用を通して、九九の習熟を図った。

「さるコース」・・・「もんだい作り名人になろう」（15名）

児童による問題の作成、お互いの問題を解き合う、発展問題を解く活動を通して、かけ算の適用場面の習熟を図った。

3 実践の成果と課題

○ それぞれのコースで、同じペースで学習を進めることができ、児童が意欲的に取り組むことができた。（特に上位・下位の児童において）また、他のクラスの児童と学習することで新たな刺激を受け、よりがんばろうとする姿が見られた。その結果、自力解決の場面も多くなり、より習熟を深めることができた。

● 今後の課題としては、習熟度学習の成果が期待できる単元についての教材研究を進めていく必要がある。コースの内容についても、児童の興味・関心を生かし、意欲的に取り組めるような課題や展開を工夫していきたい。また、適正なコース選択についても、しっかりとしたデータを積み重ねた上での支援を行っていきたい。